

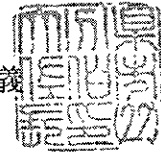


佐 建 第 176 号

平成20年10月20日

国土交通省道路局長 様

佐伯市長 西 嶋 泰 義



今後の道路行政についての意見・提案の提出について(回答)

平成20年9月19日付け、国道企第37号で依頼のありました
上記のことについて、別紙のとおり回答いたします。

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

大分県 佐伯市

● 生活幹線道路ネットワークの形成

一体的な交通体系の整備と都市機能の充実・強化を図るため、東九州自動車道の整備を軸として、様々な事業が進められています。域内の道路改良は地方への過疎・高齢者対策として欠かせないもので、特に2級国道や県道の整備が遅れており、その対策を含め、循環型道路網の整備を推進を求める。また、過疎地域では、生活道路の安全確保のため1.5車線的な道路整備を促進する。

● 東九州自動車道の整備促進

現在新直轄方式により施工中の東九州自動車道(佐伯以南)において、4車線用地の取得により、暫定2車線で実施されています。当市において、企業誘致や地場産業の育成・推進、災害時の緊急自動車等の利用により災害に強い地域づくりを図るうえにも、地方協力インターの設置が是非とも必要であり、用地の有効利用に支援を要望する。

● 通学路等における安全・安心な歩道空間の創出

人優先の安心・安全な歩行空間を形成するため、「あんしん歩行エリア」や「くらしのみちゾーン」を含め、小学校等に通う多くの児童が利用するなど、事故の危険性の高い通学路において集中的に交通安全対策を促進する。また、歩道等の設置が困難な地域においては、路肩のカラー舗装や防護柵等の簡易な方法を含め安全・安心な歩行空間の創出を推進する。

● 長寿命化修繕計画の策定及び着実な実施

点検、補修、架替等の時期を明示した長寿命化修繕計画を策定して、予防保全を推進することにより、橋梁の寿命化並びに今後の補修及び架替に必要な事業への財源的な支援。

● 災害に強い道づくり

大規模地震発生時における被害を軽減するとともに、円滑かつ迅速な対応活動を確保するため、道路の整備や異常気象時においても安全で信頼性の高い道路ネットワークを確保するため、公共施設や病院等を相互に結ぶ生活幹線道路について、防災対策を進める。

● 地方道路臨時交付金の継続

地域の生活に密着した道路の整備を安定的に推進するため、地方道路臨時交付金の継続を求める。

②—1 地域の現状と抱える課題

大分県 佐伯市

○ 現状 本市は、大分県南部に位置し、北は津久見市、西は豊後大野市、南は宮崎県延岡市に接し、温暖な気候と豊富な自然の恵みを受ける佐伯市は、平成17年3月に1市5町3村で合併し、総面積903平方キロメートルの面積を有する九州一の広さを持つ市となりました。 山間部地域は、市を縦貫する一級河川番匠川下流域の平野部を中心に発展した市街地と、260キロメートルにも及ぶリアス式の海岸部地域に大きく区分されます。市街地は県内はもとより九州内各地との交通結節拠点となるほか、重要港湾佐伯港から豊後水道を隔てて高知県宿毛市とフェリーで結ばれるなど社会、経済、文化等の各分野において都市機能を果たしています。 従来から美しい豊かな自然資源を生かした農林業や水産業と都市部を中心として発展した造船業をはじめ、パルプ、セメント工場等を基幹産業としてきました。しかしながら、これらの産業は長期に及ぶ景気低迷もあって、地域の牽引するほどには至っていません。そのため、十分な雇用の場を提供できず、過疎化や高齢化に拍車をかける結果となっています。	○ 課題 ○ 道路ネットワークの整備 ・東九州自動車道が宮崎県延岡市まで結ばれる予定で、全面開通により地域活性化が図られるアクセス道路の整備と地域間の循環型道路網の整備促進 ○ 地域の自立を目指した道路整備 ・九州一広い面積を有しているため、地形的な要因から集落が点在しており、地域住民の救急医療はもとより、日常の通勤、買い物等、地域間を広域的に共有する道路の整備 ○ 災害に強い道路づくり ・当市は、台風の襲来地域であるとともに、東南海・南海沖地震が懸念されるなか、道路・河川等の公共土木施設の被害のほか海岸部における高潮・越波による災害が発生しています。 このような緊急時において、孤立地域を出さない、地域住民のライフラインの確保をする災害に強い道路の整備促進 ○ 観光を活かした道路整備 ・当市は、「日本の渚百選」に選定された元猿海岸、「日本の白砂青松百選」に選定された波当津海岸、そのほかキャンプ場、展望公園等多くの施設があり、各観光施設を活かし地域振興を目指している。なかでも、「日本風景街道」(シーニック・バイウェイ・ジャパン)や今年事業認定された「広域観光圏整備事業」(新東九州観光圏東九州東方見聞録泉と浦の旅)の指定も受け、豊富な水産資源を活かし、佐伯市と宮崎県延岡市を結ぶ「東九州伊勢エビ街道」を代表する「食」の観光に力を入れている。将来的には車による外来者を増やし、地域の活性化や過疎化対策を図るうえにも、観光資源と連携した道路の整備は不可欠である。 ○ 高齢者や障害者にやさしい道路づくり ・高齢者率が高い地域において、快適な生活環境の構築と活力ある地域形成を図るため、歩道や交差点、横断歩道、道路空間のバリアフリー化を推進する
---	---

②—2 地域の目指すべき将来像

大分県 佐伯市

「九州一の広大なやさしさ 佐伯市」

わたしたちのまちは、903平方キロメートルという九州一の面積を誇ります。

この広大な土地は、温暖な気候の下、祖母傾国定公園の一角をなす森林地域と番匠川水系の清流に育まれた田園地域と、日豊海岸国定公園に指定された269キロにおよぶリアス式海岸地域からなっています。さらに、本市には、これからの豊かな自然を背景に、新鮮で豊富な食材とこれらを使ったおいしい料理、厚い人情、治安のよさなど、人がこころ豊かに暮らしていくための基礎条件がそろっています。このような本市の姿は、「健康と環境を志向するライフスタイル」である「ロハス」の思想を具体化するものであり、都会人などにとっては、まさしく広大な「癒しの地」であるといえます。

今後、わたしたちは、より一層、お互いに融和し、協力しあって、この豊かな自然を守り、育て、これを基盤として潤いと活力に満ちたふれあいのまちをつくりたいと思います。

このような「豊かな自然」や「癒し」、「人々の融和の姿」、「ふれあい」などは、すべて「やさしさ」のイメージをもっています。わたしたちのまちは、903平方キロメートルという九州一の広大な面積をもつとともに、いろいろな面で九州一の「やさしさ」が満ちあふれ、住む人にも、訪れる人にも、「やさしさ」を実感していただける活力あるまちを目指します。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

大分県 佐伯市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
交通安全対策	国道217号線において、リアス式海岸特有の地形で台風時や高潮により度々交通止めを余儀なくされていたが、市内と周辺地域を結ぶ主要幹線道路がトンネルで結ばれ、通勤・通学の利用がスムーズになった。	○ トンネルの開通により、歩行者や自転車者利用者の安全が確保できた。 ○ 造船業で大型自動車の出入り時に通行止めが余儀なくされていたが、その必要がなくなった。	